

# メモ (形式的冪級数)

hos

2019 年 9 月 18 日

大事なこと：収束のことは考えない．その代わり，知らない演算をしない．

$\mathbb{N}$  は非負整数全体の集合とする<sup>\*1</sup>．

## 1 形式的冪級数環

$R$  を可換環とする<sup>\*2</sup>．

$X$  を不定元として， $R$  の加算個の直積  $\prod_{i \in \mathbb{N}} R$  の元  $(a_i)_{i \in \mathbb{N}}$  を形式的に  $\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i$  (あるいは  $a_0 + a_1 X + a_2 X^2 + \dots$ ) と書いたものの集合を  $R[[X]]$  とする．この元を  $a(X)$  のように書くこともある． $a_i$  を  $a(X)$  の  $i$  次の係数 (あるいは  $X^i$  の係数) と呼び， $[X^i]a(X)$  のように書く．0 次の係数を定数項と呼ぶ．

$\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i, \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \in R[[X]]$  に対し，加法と乗法を

$$\begin{aligned} \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i + \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i &:= \sum_{i \in \mathbb{N}} (a_i + b_i) X^i, \\ \left( \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i \right) \left( \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \right) &:= \sum_{i \in \mathbb{N}} \left( \sum_{j \in \mathbb{N}, i+j=k} a_i b_j \right) X^k \end{aligned}$$

で定めると，可換環になることを示す．加法の単位元は  $0 = 0 + 0X + 0X^2 + \dots$ ，乗法の単位元は  $1 = 1 + 0X + 0X^2 + \dots$ ．乗法の結合法則のみやや非自明で， $\left( \left( \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i \right) \left( \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \right) \right) \left( \sum_{i \in \mathbb{N}} c_i X^i \right)$  の  $m$  次の係数が

$$\sum_{l, k \in \mathbb{N}, l+k=m} \left( \sum_{i, j \in \mathbb{N}, i+j=k} a_i b_j \right) c_k = \sum_{i, j, k \in \mathbb{N}, i+j+k=m} a_i b_j c_k$$

となることから従う．この可換環  $R[[X]]$  を， $R$  係数形式的冪級数環と呼ぶ．

さらに， $r \in R$  はそのまま  $r + 0X + 0X^2 + \dots \in R[[X]]$  とみれるので，包含  $R \hookrightarrow R[[X]]$  により  $R[[X]]$  は  $R$  代数でもある．

例． $(1 + X)(1 + X + X^2 + X^3 + \dots) = 1 + 2X + 2X^2 + 2X^3 + \dots$ ．

<sup>\*1</sup> 普段は  $\mathbb{Z}_{\geq 0}$  とかを使って  $\mathbb{N}$  という記号を避けようと思っているのですが， $\sum$  の下にたくさん書くので仕方なく．

<sup>\*2</sup> 環と言ったら乗法の単位元の存在を仮定します．

$a(X) \in R[[X]]$  に対し, 集合  $a(X)R[[X]] := \{a(X)b(X) \mid b(X) \in R[[X]]\} \subseteq R[[X]]$  は  $R[[X]]$  のイデアルである.  $b(X), c(X) \in R[[X]]$  が  $b(X) - c(X) \in a(X)R[[X]]$  を満たすことを  $b(X) \equiv c(X) \pmod{a(X)}$  と書く.  $n \in \mathbb{N}$  に対し,  $\text{mod } X^n$  での合同は,  $n$  次未満の係数が等しいことを表す.

例.  $0 + 1X + 2X^2 + 3X^3 + 4X^4 + \cdots \equiv X + 2X^2 \pmod{X^3}$ .

次の命題は, 突き詰めると環の位相の話になるが, 本稿では技術的な補題として用いる.

**命題 1.**  $a(X), b(X) \in R[[X]]$  について,  $a(X) = b(X)$  である必要十分条件は, 任意の  $n \in \mathbb{N}$  に対して  $a(X) \equiv b(X) \pmod{X^n}$  であること.

証明. (必要性) 明らか.

(十分性) 任意の  $i \in \mathbb{N}$  に対し,  $n = i + 1$  ととって  $a(X) \equiv b(X) \pmod{X^{i+1}}$  なので,  $a_i = b_i$  となる.  $\square$

## 2 乗法の逆元

環の単元とは, 乗法の逆元をもつ元のこと. 可逆元. 1 の約数.

**命題 2.**  $\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i \in R[[X]]$  が単元であるための必要十分条件は,  $a_0$  が  $R$  の単元であること.

証明. (必要性)  $\sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \in R[[X]]$  が  $\left(\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i\right) \left(\sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i\right) = 1$  を満たすとする, 定数項を比較して,  $a_0 b_0 = 1$  である.

(十分性)  $a_0$  が単元のとき,  $\sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \in R[[X]]$  を

$$\begin{aligned} b_0 &= a_0^{-1}, \\ b_i &= -a_0^{-1} \sum_{j \in \mathbb{N}, 1 \leq j \leq i} a_j b_{i-j} \quad (i \geq 1) \end{aligned}$$

として定めると,  $\left(\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i\right) \left(\sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i\right) = 1$  を満たす.  $\square$

$a(X) \in R[[X]]$  の乗法の逆元が存在するとき, それは一意なので,  $a(X)^{-1}$  や  $\frac{1}{a(X)}$  と書く.

例.  $r \in R$  に対し,  $(1 - rX)^{-1} = \sum_{i \in \mathbb{N}} r^i X^i$ .

ここまでで定めた加減乗除については、一般の  $R$  代数で成り立つことを用いて普通の計算ができるし、普通の表記をする。

例.  $a(X) \in R[[X]]$  に対して、 $a(X)^2$  とは  $a(X)a(X)$  のことであり、 $a(X)^2$  の逆元は  $(a(X)^{-1})^2$  であり  $a(X)^{-2}$  と書く。

例. 正の整数  $n$  に対し、 $(1-X)^{-n} = \sum_{i \in \mathbb{N}} \binom{i+n-1}{n-1} X^i$ .

### 3 合成

形式的冪級数の合成は、 $X$  の部分に「代入」していいものは定数項が 0 でなければならないことに注意を要する。

定義.  $a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}, i \geq 1} a_i X^i \in XR[[X]]$  と  $b(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \in R[[X]]$  に対し、 $b(X)$  と  $a(X)$  の合成  $(b \circ a)(X)$  を

$$(b \circ a)(X) := \sum_{i \in \mathbb{N}} \left( \sum_{k \in \mathbb{N}, j_1, \dots, j_k \in \mathbb{N}, j_1, \dots, j_k \geq 1, j_1 + \dots + j_k = i} b_k a_{j_1} \cdots a_{j_k} \right) X^i$$

で定める。内側の  $\sum$  について、 $k \leq i$  が従うためこれは有限和である。特に、 $(b \circ a)(X)$  の定数項は  $a_0$  である。

$(b \circ a)(X)$  の  $i$  次の係数は、 $b_k a(X)^k$  の  $i$  次の係数を  $k \in \mathbb{N}$  について足したものである。つまり、形式的に  $(b \circ a)(X) = \sum_{k \in \mathbb{N}} b_k a(X)^k$  と書きたいが、右辺は  $R[[X]]$  の元の無限和であり定義されておらず、各係数ごとに有限和として定義できるための条件が  $a(X)$  の定数項が 0 であることに他ならない。このとき、 $k > i$  の項は  $i$  次の係数に影響を与えない。言い換えると、

命題 3.  $a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}, i \geq 1} a_i X^i \in XR[[X]]$  と  $b(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \in R[[X]]$  に対し、

$$(b \circ a)(X) \equiv \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} b_k a(X)^k \pmod{X^n}$$

が成り立つ。

証明.  $i \in \mathbb{N}$ ,  $i < n$  に対し,  $k \leq i$  ならば  $k < n$  であるから,

$$\begin{aligned}
(b \circ a)(X) &\equiv \sum_{i \in \mathbb{N}, i < n} \left( \sum_{k \in \mathbb{N}, j_1, \dots, j_k \in \mathbb{N}, j_1, \dots, j_k \geq 1, j_1 + \dots + j_k = i} b_k a_{j_1} \cdots a_{j_k} \right) X^i \\
&= \sum_{i \in \mathbb{N}, i < n} \left( \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n, j_1, \dots, j_k \in \mathbb{N}, j_1, \dots, j_k \geq 1, j_1 + \dots + j_k = i} b_k a_{j_1} \cdots a_{j_k} \right) X^i \\
&= \sum_{i \in \mathbb{N}, i < n} \left( \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} [X^i] b_k a(X)^k \right) X^i \\
&= \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} \left( \sum_{i \in \mathbb{N}, i < n} [X^i] b_k a(X)^k \right) X^i \\
&\equiv \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} b_k a(X)^k \pmod{X^n}
\end{aligned}$$

である. □

合成を「代入」と考えたとき成り立ってほしい性質たちを確認していく.

**命題 4.**  $a(X) \in XR[[X]]$  は  $R$  代数の準同型  $a^*: R[[X]] \rightarrow R[[X]]$ ;  $b(X) \mapsto (b \circ a)(X)$  を定め, これは  $a^*(X) = a(X)$  を満たす. すなわち,  $b(X), c(X), d(X) \in R[[X]]$  に対し,

- (1)  $b(X) + c(X) = d(X)$  ならば  $(b \circ a)(X) + (c \circ a)(X) = (d \circ a)(X)$ .
- (2)  $b(X)c(X) = d(X)$  ならば  $(b \circ a)(X)(c \circ a)(X) = (d \circ a)(X)$ .
- (3)  $b(X) = 1$  ならば  $(b \circ a)(X) = 1$ .
- (4)  $b(X) = X$  ならば  $(b \circ a)(X) = a(X)$ .

証明. (1) 合成の定義から明らか.

(2)  $a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i$ ,  $b(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i$ ,  $c(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} c_i X^i$  とする.  $n \in \mathbb{N}$  を任意にとる. 命題 3 より,

$$\begin{aligned}
(a \circ d)(X)(b \circ d)(X) &\equiv \left( \sum_{i \in \mathbb{N}, i < n} a_i d(X)^i \right) \left( \sum_{j \in \mathbb{N}, j < n} b_j d(X)^j \right) \\
&= \sum_{k \in \mathbb{N}, k < 2n} \left( \sum_{i, j \in \mathbb{N}, i, j < n, i+j=k} a_i b_j \right) d(X)^k \\
&\equiv \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} \left( \sum_{i, j \in \mathbb{N}, i+j=k} a_i b_j \right) d(X)^k \\
&= \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} c_k d(X)^k \\
&\equiv (c \circ d)(X) \pmod{X^n}
\end{aligned}$$

である. よって, 命題 1 より  $(a \circ d)(X)(b \circ d)(X) = (c \circ d)(X)$  が従う.

$$(3) \ b_0 \text{ のみ } 1 \text{ なので, } (b \circ a)(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} \left( \sum_{0=i} 1 \right) X^i = 1.$$

$$(4) \ b_1 \text{ のみ } 1 \text{ なので, } (b \circ a)(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} \left( \sum_{k_1 \in \mathbb{N}, k_1 \geq 1, k_1=i} a_{k_1} \right) X^i = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i = a(X).$$

□

**命題 5.**  $a(X), b(X) \in XR[[X]]$  と  $c(X) \in R[[X]]$  に対し,  $(c \circ (b \circ a))(X) = ((c \circ b) \circ a)(X)$ .

証明.  $c(X) = X$  のとき, 命題 4 (4) より,

$$(c \circ (b \circ a))(X) = (b \circ a)(X) = ((c \circ b) \circ a)(X)$$

である. すなわち  $(b \circ a)^*(X) = (a^* \circ b^*)(X)$  である ( $(b \circ a)(X)$  は形式的冪級数の合成,  $a^* \circ b^*$  は  $R$  代数の準同型の合成であることに注意する).

$R[[X]]$  は  $X$  で生成されるので, 準同型は  $X$  の行き先で定まる. よって  $(b \circ a)^* = a^* \circ b^*$  であり, 任意の  $c(X)$  に対し

$$(c \circ (b \circ a))(X) = (b \circ a)^*(c(X)) = (a^* \circ b^*)(c(X)) = ((c \circ b) \circ a)(X)$$

となる.

□

これらの理解のもと,  $(b \circ a)(X)$  を  $b(a(X))$  と書く. とくに,  $b(0)$  は  $b(X)$  の定数項に等しい.

$$\text{例. } a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i \in R[[X]] \text{ と正の整数 } n \text{ に対し, } a(X^n) = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^{ni}.$$

$$\text{例. } a(X) = \frac{X}{1-X} = \sum_{i \in \mathbb{N}} X^{i+1} \in R[[X]] \text{ と } n \in \mathbb{N} \text{ に対し, } \underbrace{(a \circ \cdots \circ a)}_n(X) = \frac{X}{1-nX} = \sum_{i \in \mathbb{N}} n^i X^{i+1}$$

( $n$  回合成を  $a^n$  と書くと  $a^n(X)$  か  $a(X)^n$  かかなり紛らわしいため避けている).

## 4 形式微分

多項式の微分を拡張して形式微分が定義できる. 記法についてはいくつかの流儀・用途がある.

**定義.**  $R$  加群の準同型  $D_X: R[[X]] \rightarrow R[[X]]$  を,  $a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i \in R[[X]]$  に対し,

$$D_X a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}, i \geq 1} i a_i X^{i-1}$$

として定める.  $D_X a(X)$  を  $a'(X)$  と書く.  $D_X$  を  $X$  による **形式微分** と呼ぶ.

$D_X$  は  $R$  加群としては準同型である (線型性を満たす) が  $R$  代数の準同型ではない (積は保たない) ことに注意する. 積に関しては, 以下のいわゆる Leibniz rule を満たす.

**命題 6.**  $a(X), b(X) \in R[[X]]$  に対し,  $D_X(a(X)b(X)) = (D_X a(X))b(X) + a(X)(D_X b(X))$ .

**証明.**  $D_X$  が  $R$  加群の準同型なので,  $R$  加群としての基底についてのみ示せばよい.  $a(X) = 1$  または  $b(X) = 1$  のときは  $D_X(1) = 0$  よりよい.  $a(X) = X^m, b(X) = X^n$  ( $m, n \in \mathbb{N}, m, n > 0$ ) のとき,

$$(D_X(X^m))b(X^n) + X^m(D_X(X^n)) = mX^{m-1} \cdot X^n + X^m \cdot nX^{n-1} = (m+n)X^{m+n-1} = D_X(X^{m+n})$$

より成り立つ. □

以下はいわゆる chain rule である.

**命題 7.**  $a(X) \in XR[[X]]$  と  $b(X) \in R[[X]]$  に対し,  $D_X(b \circ a)(X) = b'(a(X))a'(X)$ .

**証明.**  $D_X$  が  $R$  加群の準同型であることと命題 4 より,  $b(X) = X^n$  ( $n \in \mathbb{N}$ ) のときについて示せばよい. このとき命題 4 より  $(b \circ a)(X) = a(X)^n$  である.  $n = 0$  のときはよい.  $n \geq 1$  のとき, 命題 6 を繰り返し用いて,

$$D_X(b \circ a)(X) = D_X(a(X)^n) = na(X)^{n-1}a'(X) = b'(a(X))a'(X)$$

となりよい. □

**例.**  $a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i$  に対し,  $D_X a(0) = a_1$  である. より一般に,  $n$  階微分を考えると,  $D_X^n a(0) = \underbrace{D_X \cdots D_X}_n a(0) = n!a_n$  である.

**例.**  $(1-X)^{-1} = \sum_{i \in \mathbb{N}} X^i$  について,  $D_X(1-X)^{-1} = \sum_{i \in \mathbb{N}, i \geq 1} iX^{i-1} = (1-X)^{-2}$ .

## 5 exp

定義.  $R$  を標数 0 の環とする.  $\exp(X) \in R[[X]]$  を,

$$\exp(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} \frac{1}{i!} X^i$$

で定める.

## 6 形式積分

## 7 log

## 8 合成逆

## 9 多変数

## 10 形式的 Laurent 級数

## 11 アルゴリズム

## 12 数え上げ